

(前頁より続く)

(1) 区会運営の問題点(まとめ)

- ①高齢化が進み、新規区会活動参加者が少なくなった。
- ②区会の組織化が進んでいない。(運営体制脆弱化、区会員との情報連携不足)
- ③現役ボランティア組織との交流、連携体制が弱い。

(2) 打開策(まとめ)

- ①会員への区会活動に関する意識調査。
- ②会員の区会参加率向上策の検討。
- ③会員相互の交流・意思疎通対策検討
- ④区会運営方針明確化、運営ノウハウの整備
- ⑤在校生への区会活動PR対策検討

3. 区会活性化推進のための実態調査実施 (第4回~7回、8月~12月)

以上の具体策実施にあたり、次の実態調査を企画し、逐次実施。

(1) 区会組織運営体制調査

全区会を対象に区会運営スタッフ、組

織運営状況(定例会議開催状況、会員への連絡方法、会員との親睦交流行事、ボランティア活動取組みなど)を実態調査。

(2) 全会員への区会活動に関するアンケート調査(8月~12月)

全会員を対象に「区会活動への参加状況」「ボランティア活動協力状況」「新規ボランティア依頼を受けた際の協力可否・希望活動内容」など意識調査し、分析。

4. 各区会独自の活性化対策立案と区会運営ノウハウ共有化

(1) 各区会独自の活性化対策立案(1月~2月)

以上のアンケート調査結果に基づき、各区独自に課題を整理し具体策を立案。

(2) 「区会運営マニュアル」の整備(3月)

全区会が共有化すべき「運営ノウハウ」を集中審議し、これらを整理して「区会運営マニュアル」を作成。

季節の草花

カラスノエンドウ(烏野豌豆)

生環8期 久保 知彦

春先には、オオイヌノフグリやハコベ、ヒメオドリコソウなどに続いて、この花が姿を現します。マメ科の植物で、長さ30~90cm、葉は10個内外の小葉からなる葉をつけ、葉先の1~3個の小葉は巻きひげとなり他物にからみつきます。そして葉の基部に赤紫の花(蝶形花)をつけます。やがて小さなさやに5~10個の種子ができます。熟したさやは黒くなり2片に裂けて種子をはじきだします。若葉は食用になります。豆のほうも食べられるようです。

ひとまわり小さいもので、スズメノエンドウがあります。豆果にはふつう2個の種子が入っています。また、この中間のもので、カスマグサというのがあります。名前の由来は、カラスとスズメの間(カとスの間)ということです。種子は3~5個。まきひげが枝分かれし

ないので区別がつく。

植物の名前には、カラスとかスズメ、イヌ、ヒメ、ミヤマなどをつけて、類似した種類を区別しています。命名には苦労するのですが、粋な名前のもありますが、中には可哀想な名前をもらっているものもありますね。

花言葉 「小さな恋人達」

